



VIDEOJET decoder 8000

VJD-8000 | VJD-8000-N



BOSCH

ja

設置マニュアル

目次

1	安全性	5
1.1	感電のおそれ	5
1.2	設置および操作	5
1.3	メンテナンスおよび修理	5
1.4	ファームウェアとソフトウェア	5
2	お知らせ	6
2.1	このマニュアルについて	6
2.2	本マニュアルの表記上の規則	6
2.3	使用目的	6
2.4	EU指令	6
2.5	銘板	6
3	システムの概要	7
3.1	付属部品	7
3.2	機能の概要	7
3.3	接続、制御、および表示	9
4	インストール	11
4.1	準備	11
4.2	取り付け	11
5	接続	13
5.1	接続手順	13
5.2	モニターの接続	13
5.3	ネットワーク接続	13
5.4	音声の接続	13
5.5	電源の接続	13
5.6	電源オン／電源オフ	13
6	設定	15
6.1	Configuration Managerによるデコーダーの設定	15
6.1.1	[ユニットアクセス] タブ	15
6.1.2	[詳細設定] タブ	16
6.1.3	[ネットワークアクセス] タブ	17
6.2	ビデオシステムへのデコーダーの組み込み	17
6.3	Video Clientによるデコーダーの設定	17
7	トラブルシューティング	19
7.1	お問い合わせ	19
7.2	一般的な動作不良	19
7.3	LED	19
8	メンテナンス	21
8.1	更新	21
8.2	修理	21
9	使用停止	22
9.1	譲渡	22
9.2	廃棄	22
10	技術データ	23
10.1	電氣的仕様	23
10.2	機械的仕様	23
10.3	環境条件	23
10.4	認証および認定を受けた規格	23
10.5	規格	23

索引	25
----	----

1 安全性

Bosch Security Systems製品の資料とソフトウェアは、次の方法でオンライン製品カタログから探すことができます。

- ▶ 任意のブラウザを開く > 「www.boschsecurity.com」を入力 > 国と地域を選択 > 製品の検索を開始 > 検索結果から製品を選択し、既存のファイルを表示
- ▶ 直接アクセスするには、クイックインストールガイドのQRコードを使用してください。

1.1 感電のおそれ

- 本機を指定外の電源に接続しないでください。
- 付属している電源装置以外は使用しないでください。
- 本機は、アース接続された主電力コンセントに接続してください。
- 本機の筐体を絶対に開けないでください。
- 電源装置を絶対に開けないでください。
- 障害が発生した場合は、電源装置を電源およびその他すべての機器から切り離してください。
- 電源装置および本機は、湿気の多い場所、水や雨のかかる場所には設置しないでください。
- 本機の動作の安全性が確認できない場合は、運用を中断し、安全が確認できるまで使用しないでください。このような場合は、本機の点検をBosch Security Systemsに依頼してください。

以下の状態では、安全を確保できません。

- 本機または電源ケーブルに損傷がある
- 本機が正しく動作しない
- 本機が雨にさらされている、または湿気が多いところに設置されている
- 本機に異物が侵入した
- 悪条件のもとで長期間保管された
- 輸送中に強い衝撃を受けた

1.2 設置および操作

- 本機の設置作業を行う場合は、電気設備技術基準に従ってください。
- 本機の設置には、ネットワークに関する技術的な知識が必要です。
- プラグ着脱可能なデバイスには、機器の近くに設置されたコンセントが必要です。
- 本機の取り付けまたは操作の前に、関連するドキュメントを理解しておいてください。マニュアルには、安全に関する重要な注意事項や用途に関する情報が記載されています。
- 本機の設置および操作は、本マニュアルに記載している手順に従って行ってください。それ以外の手順で行うと、怪我や、物的損害または機器の損傷につながる場合があります。

1.3 メンテナンスおよび修理

- 本機のハウジングは絶対に開けないでください。本機の部品をお客様自身で交換しないでください。
- 電源装置を絶対に開けないでください。電源装置の部品をお客様自身で交換しないでください。
- 本機のメンテナンスおよび修理は、有資格サービススタッフ（電気技術者またはネットワーク技術者）がすべて行います。よくわからない場合は、販売店の技術サービスセンターにお問い合わせください。

1.4 ファームウェアとソフトウェア

- VIDEOJET decoder 8000は、インストール済みのファームウェアおよびソフトウェア製品でのみ操作できます。
- 本製品用以外のファームウェアやソフトウェアはインストールしないでください。

2 お知らせ

2.1 このマニュアルについて

本マニュアルは、VIDEOJET decoder 8000装置の設置、操作を行うユーザーを対象に説明しています。国際規定および国内の電気設備技術基準を厳守してください。基礎的なネットワークの知識や使用するネットワーク機器についての知識が必要です。本マニュアルでは、本機の設置について説明します。

2.2 本マニュアルの表記上の規則

本マニュアルでは、注意を促す必要がある場合、以下の記号と表記を使用しています。



警告!

この注意喚起語と記号の使用は、記載された安全に関する指示に従わないと、人体への危険を引き起こす恐れがあることを示しています。指示に従わなかった場合は、死亡事故や重度の怪我に至る危険な状況を示します。



注意!

この注意喚起語と記号の使用は、記載された安全に関する指示に従わないと、人体への危険を引き起こす恐れがあることを示しています。指示に従わなかった場合は、軽微な、または中程度の怪我に至る危険な状況を示します。



注意!

この注意喚起語と記号の使用は、記載された安全に関する指示に従わないと、本機またはその他の機器への損傷またはデータ損失を引き起こす恐れがあることを示しています。

2.3 使用目的

VIDEOJET decoder 8000ビデオデコーダーは映像および音声信号をネットワーク（Ethernet、LAN、インターネット）経由で受信およびデコードします。標準画質（SD）、高画質（HD）、4K超高精細（UHD）およびメガピクセル（MP）カメラやエンコーダーの映像を、H.264/MPEG-4エンコーディング（最大60フレーム数/秒）を使用してIPネットワーク経由で表示します。本機は、防犯カメラシステムでの使用を目的とした製品です。これら以外の用途には使用しないでください。このマニュアルに説明されていない本機の使い方や、ご不明な点がございましたら、販売店または下記までお問い合わせください。

Bosch Sicherheitssysteme GmbH
Robert-Bosch-Ring 5
85630 Grasbrunn
ドイツ
www.boschsecurity.com

2.4 EU指令

VIDEOJET decoder 8000はEU指令89/336（電磁適合性）および73/23（93/68で改訂、低電圧指令）の要件に準拠しています。

2.5 銘板

製品を正しく識別するための型名およびシリアル番号が印刷された銘板がハウジングの下部に貼られています。本機を設置する前に、これらをメモしておくことをお勧めします。お問い合わせや交換部品をご注文の際に、型名・シリアル番号が必要になります。

3 システムの概要

3.1 付属部品

- VIDEOJET decoder 8000 (ビデオデコーダー) ×1、
- 各国向け電源装置および電源コード×1
- モニター取り付けキット×1
- クイックインストールガイド×1
- 安全情報×1



注意!

同梱品がすべて揃っているか、破損しているものがないかを確認してください。同梱物に破損がある場合は、販売店またはBosch Security SystemsIにご連絡ください。

3.2 機能の概要

ビデオデコーダー

VIDEOJET decoder 8000は、標準画質 (SD)、高画質 (HD)、4K超高精細 (UHD) およびメガピクセル (MP) カメラやエンコーダーの映像を、H. 264/MPEG-4エンコーディング (最大60フレーム数/秒) を使用してIPネットワーク経由で表示します。

20Mbpsで4Kp30を2ストリーム、あるいは10Mbpsで1080p30を6ストリーム、H. 264 720p60を8ストリームまたはH. 264 720p30を12ストリームを完璧にデコードすることができます。また、高速で動くAUTODOMEカメラの最大6MbpsでのH. 264標準画質を30ストリーム同時に極めて鮮明にデコードすることができます。中程度のオブジェクト動作シーンで、H. 264 SDストリームが最大2.5Mbpsで接続されている場合は、最大60ストリームを表示することができます。

VIDEOJET decoder 8000は2台の4K UHDディスプレイを接続することができ、それぞれが個別に設定できる画面設定となっているため、中間価格帯のモニターを使用する場合のフラットパネルのモニターウォールのアプリケーション向けとして最適です。

本機は専用設計の筐体で提供されます。100mmのVESA取り付けオプションで、モニター背面に直接取り付けすることができます。

デコード性能に対しコンパクトサイズであるVIDEOJET decoder 8000は、スペースに制約がある場合のディスプレイ用途にも非常に適しています。

リモコン

Boschの総合映像管理システムを使って、表示モードを遠隔制御して映像表示を提供します。

オペレーティングシステム

VIDEOJET decoder 8000は、最新のCPU、第5世代Intel Core i3を採用しています。本機は、オペレーティングシステムとアプリケーションのブートメディアとして64GBのSSDモジュールを搭載しており、ギガビットイーサネットポートを使用しています。

本機はカスタマイズされたBoschブランドのMicrosoft Windows 8.1 Embeddedオペレーティングシステムと、UHD対応VideoSDK6ベースのMonitor Wallソフトウェアを搭載しています。このソフトウェアは、Intelのハードウェアデコーディングアクセラレータの活用により、4K UHDおよびMP映像のデコード向けに最適化されます。

VIDEOJET decoder 8000は2つのMini DisplayPortを備えており、同時に両ポートに最大4K UHDのモニターを接続できます。

ハイパフォーマンス

4K UHDおよびMPのIP映像を高性能VIDEOJET decoder 8000に送ることで、大画面フラットパネルHDモニター (19インチ/55インチの高性能Bosch HD LCDモニターなど) で鮮明に表示することができます。

VIDEOJET decoder 8000は、20Mbpsで4Kp30を2ストリーム、あるいは10Mbpsで1080p30を6ストリーム、720p60を8ストリームまたは720p30を12ストリーム（事前に設定されたレイアウトや動作中に切り替え可能なレイアウトなどで）を完璧にデコードすることができます。SD画質最大30ストリームを最大6Mbpsのフル解像度／フレームレートで処理し、2台のモニターにフレキシブルなレイアウトで表示することができます。

低解像度や低ビットレート、低フレームレートでは、最大60の映像ストリームをさまざまな選択可能な画面レイアウトで表示することができます。

制御用ビデオマネージメントシステムを使えば、操作中にいつでもレイアウトを切り替えることができます。アラームシナリオに基づいて、レイアウトを切り替えることができます。

VIDEOJET decoderは横置きと縦置きのビデオとモニターをサポートします。使用可能な画面スペースを最適に活用するように、レイアウトの自動調整が行われます。

デコード性能

エンコーディング	ストリーム	解像度	最大ビットレート
H. 264 MP	2	12MP p20	20Mbps
H. 264 4K UHD	2	2160p30	20Mbps
H. 264 HD	6	1080p30	10Mbps
	8	720p60	10Mbps
	12	720p30	10Mbps
H. 264 SD	30	4CIF／432p	6Mbps
	60	4CIF／432p	2. 5Mbps

アクセスセキュリティ

デコーダーには、ネットワーク、ユニット、およびデータチャンネルにアクセスするためのさまざまなレベルのセキュリティを設定することができます。 システムアクセスは、2つのレベルでパスワード保護されています。

マルウェアからの保護

VIDEOJET decoderは、ウイルスやその他のマルウェアから保護できるように設計されています。 Boschのソフトウェアは、セキュリティホールを防ぐため、操作やメンテナンスの通信トランザクションを制限しています。 また、組み込みオペレーティングシステムが本用途に合わせてカスタマイズされています。 このデコーダーではMicrosoftとBosch製ソフトウェアのみが動作しています。 ファイアウォールのセキュリティレベルは最も高く設定されており、最低限必要な通信サービスのみが許可されています。 すべてのアクセスがパスワードで保護されており、USBやその他のストレージデバイスを使用することはできません。 また、更新ファイルが認証、暗号化されるため、悪意のあるソフトウェアから最大限保護することができます。

アップグレードが容易

新しいファームウェアまたはソフトウェアがリリースされた場合、デコーダーをリモートからいつでもアップグレードできます。 アップグレードにより、最新機能が利用可能になるため、設備投資を無駄にすることがありません。

概要

VIDEOJET decoder 8000には、主に以下の機能があります。

- IPデータネットワーク経由での映像および音声の受信
- 最大60フレーム数／秒でH. 264またはMPEG-4デコーディング
- H. 264高解像度の1080p30を最大6ストリーム、または720p60の8ストリームか720p30の12ストリームに対応し、全10Mbpsを同時にデコード
- 最大30のH. 264標準画質ストリームを最高6Mbpsで同時にデコード

- 内蔵イーサネットポート（10/100/1000 Base-T）
- すべての内部機能をTCP/IP経由で設定、遠隔制御が可能（HTTPSによるセキュリティ保護に対応）
- 不正な接続や設定変更を防ぐパスワード保護
- アップロード機能によりメンテナンスが容易
- 制御およびデータチャンネルのフレキシブルな暗号化機能
- Mini DisplayPort**DP1**経由の音声双方向通信（モノラル）
- 国際規格G.711およびL16に基づく音声エンコーディング

3.3 接続、制御、および表示



- 1 SSD LED
SSD動作時にオレンジ色に点灯します
- 2 電源LED
本機の電源がオンの場合に青色で点灯します
- 3 電源スイッチ
本機をオンまたはオフにします
- 4 DC電源コネクタ
同梱の電源アダプター接続用
- 5 DisplayPort**DP1**
Mini DisplayPort（1/2）音声伝送にも使用
- 6 RJ45ソケット**ETH**
イーサネットLAN（ローカルネットワーク）10/100/1000MBit Base-T接続用
- 7 **USB**ポート×2
デュアルUSB 3.0×2
- 8 DisplayPort**DP2**
Mini DisplayPort（2/2）

9 ケンジンントロック

参照項目:

- LED, ページ 19

4 インストール

4.1 準備

VIDEOJET decoder 8000および電源アダプターは、屋内利用に限られます。環境条件に合った設置場所でお使いください。



注意!

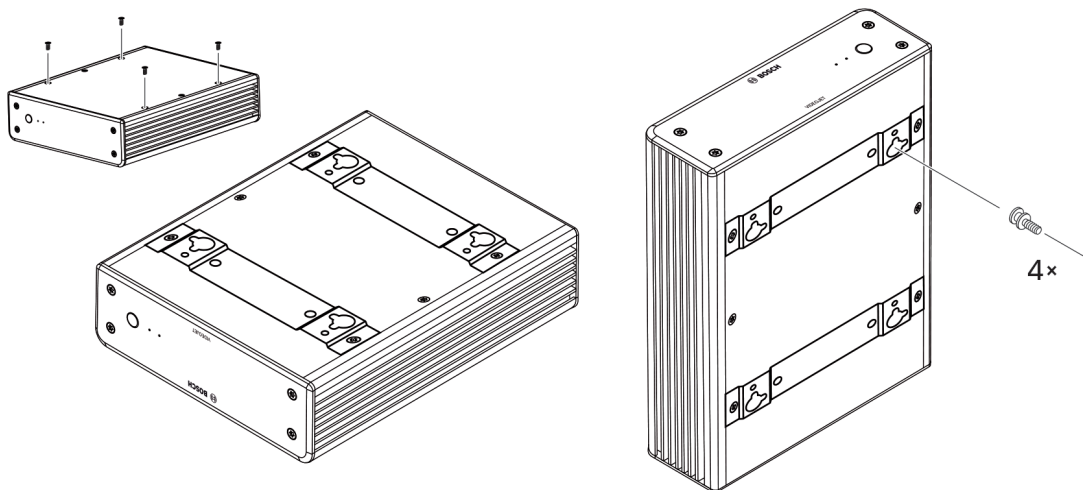
本機の周囲温度条件は0～+50℃（+32～+122° F）です。相対湿度が90%以下の場所で使用してください。

本機および電源装置は、作動中は高温になりますので、適切な通気を確保し、熱に弱い物や機器から十分に離して設置してください。電源装置を接続しない状態でも高温になると装置あたり221BTU/hに達することもあるため、ご注意ください。

設置条件は以下の通りです。

- － ヒーターなどの熱を発する機器の近くに本機または電源装置を設置しないでください。直射日光の当たる場所は避けてください。
- － すべての通気口は、ふさがないでください。複数のユニットを積み重ねないでください。
- － ケーブルの配線用に十分なスペースを空けてください。
- － 本機と電源装置の両方に十分な通気を行ってください。スイッチキャビネットに複数のユニットを設置する場合は特に、総熱量を考慮してください。
- － 接続には、同梱のケーブル、または電磁波の影響を受けないケーブルを使用してください。
- － ケーブルの損傷や、ケーブルが引っ張られることによるトラブルを防ぐために、事前にケーブルの配線位置を決めてから配線してください。
- － 仕様の許容範囲を超える衝突、衝撃および激しい振動を避けてください。本機に修復不能な損傷を与える恐れがあります。

4.2 取り付け



デコーダーには4つのスタンドが付属しています。落下する可能性のない適切な平面にユニットを設置してください。

また、このデコーダーは、付属の取り付けキットを使用して、取り付けが認められているモニターに取り付けることができます。

**注意!****機器の落下による怪我**

本機をしっかり固定できる場所に取り付けてください。本機重量の4倍の荷重負担能力が必要です。モニターの背面にユニットを取り付ける場合は、VESA取り付け規格に対応したモニターのみを使用してください。

モニターの後ろ側にユニットを取り付ける場合、（特に壁に複数のモニターが並んで取り付けられている場合は）両ユニットと壁またはその他のモニター間で、十分な通気が確保されていることを確認してください。

1. デコーダーの底面にある4つのスタンドを外します。ねじは手順3で使用します。スタンドは今後に備えて保管してください。
2. 同梱の取付ブラケットを図に示すように配置します。鍵穴の向きは必ず同じにしてください。
3. ねじでブラケットを締めます。
4. モニター付属のVESA規格取り付けねじを締めます。
5. VESAねじの頭部を鍵穴に取り付け、デコーダーを下にずらして安定させます。十分な通気が行えるよう、可能であれば、接続面が下向きになるようにデコーダーを取り付けてください。

5 接続

5.1 接続手順



注意!

他の接続がすべて完了するまで、本機を電源アダプターに接続しないでください。接続してしまうと、IPアドレスの自動割り当てが失敗し、モニター解像度が誤設定されます。これは、本ユニットに重大な障害を与える場合があります。

5.2 モニターの接続

デコーダーには、適切なモニターを接続する必要があります。モニターの背面にユニットを取り付ける場合は、VESA取り付け規格に対応したモニターのみを使用してください。

本機には、2つのMini DisplayPortのモニター出力があり、これらは同時に利用可能です。

▶ それぞれのモニターケーブルまたはアダプターを使用して、各モニターを接続します。

VGA接続はサポートされていません。

5.3 ネットワーク接続

RJ45コネクタ付きの標準UTP CAT 5ケーブルを使用して、デコーダーを10/100/1000 Base-Tネットワークに接続する必要があります。

▶ ユニットをRJ45コネクタでネットワークに接続します。

すべての接続を完了した後、デコーダーの電源を入れると、RJ45コネクタのLEDが点灯し、ネットワークが正しく接続されたことを示します。緑色に点滅する左のLEDは、データがネットワーク経由で伝送されていることを示しています。

参照項目:

– LED, ページ 19

5.4 音声の接続

デコーダーには専用のオーディオポートがありません。音声はモニター出力**DP1**経由でデジタル伝送されます。モニター出力**DP2**では音声は伝送されません。

5.5 電源の接続

電源は、同梱されている別の電源アダプター経由で供給されます。欧州向けと米国（日本）向けに各1本、合わせて2本の電源コードが同梱されています。



注意!

同梱の電源装置のみを、適切な電源コードと一緒に使用してください。本機は、アース接続された主電力コンセントに接続してください。

他の接続がすべて完了するまで、本機を電源装置に接続しないでください。

1. デコーダーを電源装置に接続します。
2. 適切な電源コードを選択し、これを電源ユニットに接続してから主電源に接続します。これで本機を使用できるようになります。

5.6 電源オン／電源オフ

VIDEOJET decoder 8000の電源スイッチは、前面パネルにあります。

VIDEOJET decoder 8000は、主電源に接続されると自動的に起動します。前面のスイッチ横のLEDが青色に点灯します。起動処理の間、LEDはオレンジ色で点滅します。

1. 起動手順の後にユーザーインターフェイスを表示するには、モニターの電源を入れます。

2. 電源をオフにするには、電源スイッチを押します。青色LEDが消えます。
3. ユニットの電源を入れるには、再度電源スイッチを押します。

Monitor Wall、Bosch Video Management System、またはVideo Clientの関連マニュアルには、機能と操作に関するすべての情報が記載されています。

参照項目:

- LED, ページ 19

6 設定

この章は、ビデオマネージメントシステムの管理者を対象としています。設定手順は、ご使用のビデオマネージメントシステムによって異なります。詳細については、該当のマニュアルを参照してください。本マニュアルでは例として、Bosch Video Clientシステムでの設定について説明します。

6.1 Configuration Managerによるデコーダーの設定

本機をネットワーク上で稼働させる前に、有効なIPアドレスとサブネットマスクを設定する必要があります。



注意!

本機のネットワークの設定ではデフォルトでDHCPが有効になっています。
本機を動作させるには、ネットワーク内にアクティブなDHCPサーバーを置き、DHCPサーバーによって割り当てられるIPアドレスを知っている必要があります。

すべてのモジュールのデフォルトのアドレスは「192.168.0.1」が設定されています。
最新バージョンのConfiguration Managerは、<http://www.boschsecurity.com>にアクセスし、該当の製品ページの「ソフトウェア」タブからダウンロードしてください。
Configuration Managerでは、他のハードウェアと同様に現在使用中のデコーダーが検出されます。また、各種の情報が表示され、追加の設定オプションが示されます。以下では、本デコーダーの各種設定に関するConfiguration Managerのページを紹介し、様々な設定について説明します。



注意!

変更内容は、ツールバーの  アイコンをクリックしなければ有効になりません。

詳細については、Configuration Managerのマニュアルを参照してください。

6.1.1 [ユニットアクセス] タブ

識別情報

このグループでは、比較的大規模なインストールの場合に複数ユニットの管理を容易にするために、デコーダーに固有の名前とIDを割り当てます。

パスワード

このグループでは、デコーダーを不正なアクセスから保護することができます。
このデコーダーは2種類のパスワードレベルで操作します。**service**レベルは最高の認証レベルです。
このアクセスレベルを使用すると、必要なパスワードの入力後、ユーザーはデコーダーのすべての機能にアクセスしてすべての設定を変更することができます。**user**レベルでは、ユーザーは接続の作成／切断とレイアウトの切り替えを行うことができますが、設定へのアクセスはできません。

デバイスアクセス（[マイデバイス] メインタブのみ）

このグループでは、Configuration Managerからデコーダーへのアクセスを管理します。ここでは、Configuration Managerとデコーダー間の通信に使用するプロトコルおよびHTTPポートを指定するための設定ができます。
デコーダーがパスワードで保護されている場合は、正しいユーザー名とパスワードをここに入力する必要があります。

バージョン情報

このグループでは、ハードウェア、ファームウェアのバージョン、およびデコーダーのシリアル番号を確認できます。

6.1.2 [詳細設定] タブ

映像表示ウィンドウグループでは、分割画面のデフォルト表示を編集することができます。分割画面は、ビデオマネジメントシステム上の映像ストリームを表示する部分です。



注意!

ここでの設定はすべての分割画面に適用されます。個々の分割画面を設定することはできません。

映像の縦横比を無視

分割画面と映像ストリームの縦横比が合わない場合は、このパラメータを使用して操作を定義します。映像ストリームの元の縦横比を使用する場合は**オフ**を選択します。これにより分割画面の余分な部分は黒で表示されます。分割画面をすべて使用する場合は**オン**を選択します。これによりはみ出した映像は切り取られます。

縦横比

分割画面の縦横比のデフォルト値を選択します。ご使用の映像ソースに適切な比率を選択してください。

メタデータ

映像にメタデータオーバーレイを表示するかどうかを定義します。メタデータオーバーレイは、映像ストリームが接続されている場合のみ表示されます。

映像スムージング

ネットワークジッターが原因でデコードした映像が滑らかに動かない場合があります。映像表示の遅延というデメリットは伴いますが、滑らかさを改善することができます。この値を高く設定するほど、映像は滑らかになりますが、時間の遅延は大きくなります。映像スムージングを無効にする場合は、**0**を選択します。

表示枠間隔

分割画面間の距離を設定します。

再起動時に再接続

このパラメータが有効な場合、デコーダーを再起動すると常に以前のセッションが復元されます。**再起動時に再接続**が無効な場合は、デコーダーを再起動した後に接続を手動で再び確立する必要があります。

デコーダー数

分割画面の最大数を定義します。これにより可能な接続の数が制限されます。たとえばご使用のビデオマネジメントシステムでライセンスが許可されているチャンネル数と同じにします。

接続先

デコーダーと映像ソースとの間の接続を制限するためのパスワードを設定します。**接続先パスワード**として入力されたこのパスワードを持つ映像ソースに対してのみ、デコーダーとの接続を設定できます。これは汎用パスワードとして使用できます。詳細については、映像ソースのマニュアルを参照してください。

表示解像度

解像度調整はデフォルトで自動モードに設定されています。これにより、起動時に表示装置に最適な解像度が選択されます。

手動モードは、特別なプロジェクトで調整が必要な場合に、Bosch認定の有資格者のみが使用するようになっています。

6.1.3 [ネットワークアクセス] タブ

ここでは、デコーダーのネットワーク設定を行います。

デバイスIPアドレス

このボックスには、ネットワークの有効なIPアドレスを入力してください。

サブネットマスク

IPアドレスの適切なサブネットマスクを入力します。

ゲートウェイアドレス

必要に応じて、適切なゲートウェイアドレスを入力します。



注意!

新しく入力したIPアドレス、サブネットマスクまたはゲートウェイアドレスは、デコーダーを再起動しなければ有効になりません。

すべての必要なアドレスを入力したら、デコーダーを再起動する必要があります。

1. ツールバーで、 をクリックします。
2. 再起動を確認します。
3. 再起動後、ソフトウェアは新しいアドレスで使用できるようになります。

6.2 ビデオシステムへのデコーダーの組み込み

一般操作のみを行うデコーダーをビデオマネジメントシステムに組み込む場合には、Configuration Managerを使用して関連の設定を行うことができます。

1. デコーダーを起動します。
2. 別のPC上でConfiguration Managerを起動します。
3. Configuration Managerにより自動的にネットワーク上の互換デバイスがスキャンされます。デコーダーが検出され、メインタブ **[デバイス]** 内のリストに表示されます。
4. 識別されたデバイスのリスト内の本デコーダーのエントリを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
5. ポップアップメニューから、**[システムに追加...]** コマンドを選択します。
[システムへのデバイスの追加] ダイアログボックスが表示されます。
6. デコーダーの組み込み先として既存のグループを選択できます。
新規グループを作成する場合は、グループの名前を入力します。
グループを選択または作成せずに続行することもできます。
7. **[OK]** をクリックします。
8. メインタブ **マイデバイス** に移動します。
システムに割り当てられたデバイスのリスト内にデコーダーが表示されます。

6.3 Video Clientによるデコーダーの設定

Video Clientアプリケーションへのソフトウェアの統合に関する詳細については、Video Clientマニュアルを参照してください。

〔モニターウォール〕タブ

モニターウォールのセットアップは、デコーダーをシステムに追加している場合にのみ可能です。使用できるデコーダーは〔デコーダー〕ボックスに一覧表示されます。サイトに属しているデコーダーは、サイトに接続されている場合にのみ一覧表示されます。
直接ログオンしている場合、このタブは使用できません。

1. 〔デコーダー〕ボックスからモニターウォールグリッドの任意の位置に、デコーダーをドラッグします。



または、デコーダーと任意の位置を選択して、 をクリックします。

2. グリッドのデコーダーを新しい位置にドラッグし、グリッドを並べ直します。



3. 位置を解放するには、位置を選択して  をクリックします。デコーダーはグリッドから削除され、〔デコーダー〕ボックスに一覧表示されます。

7 トラブルシューティング

7.1 お問い合わせ

動作不良を解決できない場合は、販売店またはシステムインテグレーターにお問い合わせいただくか、直接Bosch Security Systemsのカスタマーサービスまでお問い合わせください。

次の表は、動作不良の原因を特定する際にご利用ください。

7.2 一般的な動作不良

動作不良	考えられる原因	推奨解決方法
モニターに画像が表示されない	モニターの設定	モニターで正しい入力を選択されていることを確認してください。
	ケーブル接続間違い	すべてのケーブル、プラグ、接続を確認します。
	モニター障害	本機に他のモニターを接続するか、他のモニター接続を使用します。
音声再生されない	ハードウェア故障	接続された音声ユニットがすべて正しく動作していることを確認します。
	ケーブル接続間違い	すべてのケーブル、プラグ、接続を確認します。
	誤ったDPポートを使用	接続に DP1 を使用していることを確認します。 DP2 は音声をサポートしません。
ファームウェアのアップロード後に本機が動作しない	ファームウェア更新中の電源障害	カスタマーサービスに本機の点検を依頼し、必要であれば修理対応となります。
	誤ったファームウェアファイルを使用	カスタマーサービスに本機の点検を依頼し、必要であれば修理対応となります。
電源ライトが点灯しない	ユニットの電源が入っていない	前面パネルのメインスイッチを押してください。
	ユニットと電源装置が接続されていない	すべてのケーブル、プラグ、接続を確認します。
	電源装置が主電源のコンセントに接続されていない	すべてのケーブル、プラグ、接続を確認します。

7.3 LED

本機の前面パネルと背面パネルにはLEDがあります。これらのLEDは、動作ステータスを示し、動作不良の可能性がある場合はそれを示します。

前面パネルの以下のLEDを確認してください。

電源LED

オフ： ユニットの電源がオフ、または電源装置と接続されていない。

青色で点灯： 本機の電源がオン

SSD LED

オフ： ユニットのSSDに未アクセス

オレンジ色で点滅： ユニットのSSDにアクセス中

背面パネルの以下のLEDを確認してください。

RJ45コネクターのLED

左のLED： オフ：LAN接続が確立されていない

緑色：LAN接続が確立されている

緑色で点滅：LAN動作中

右のLED： オフ：10Mbpsのデータレート

緑色：100Mbpsのデータレート

黄色：1000Mbpsのデータレート

8 メンテナンス

8.1 更新

ファームウェアとソフトウェアの更新はConfiguration Managerアプリケーション経由か、ご利用の管理システム経由で行われます。関連するドキュメントを参照してください。

8.2 修理

- 本機のハウジングは絶対に開けないでください。本機の部品をお客様自身で交換しないでください。
- 電源装置を絶対に開けないでください。電源装置の部品をお客様自身で交換しないでください。
- 本機のメンテナンスおよび修理は、有資格サービススタッフ（電気技術者またはネットワーク技術者）がすべて行います。よくわからない場合は、販売店の技術サービスセンターにお問い合わせください。

9 使用停止

9.1 譲渡

このVIDEOJET decoder 8000を譲渡する場合は、必ずこの『設置マニュアル』を添付してください。

9.2 廃棄

Bosch製品は、リサイクルおよび再利用が可能な高品質の原料およびコンポーネントで設計および製造されています。



この記号は、ご利用の終了時に家庭ごみとは別に廃棄しなければならない、電気および電子機器であることを示しています。

EUでは、使用済みの電気および電子機器製品を個別に回収するシステムがあります。この機器は、お住まいの地域の廃棄物収集／リサイクルセンターで廃棄してください。

10 技術データ

10.1 電氣的仕様

電源	ワイドレンジ、外部（付属品）
入力電圧	100～240V AC、50/60Hz
消費電力	約15W、最大65W

10.2 機械的仕様

寸法（H×W×D）	47.3×150.6×186mm（1.862×5.929×7.323インチ）（スタンドなし）
重量	約1.7kg（3.71lb）
VESA取り付け	100×100mm （3.937×3.937in）
映像	Mini DisplayPort×2、VGAのサポートなし
音声	音声はモニター出力 DP1 経由でデジタル伝送されます。
前面インジケータ	LED×2（電源、SSD）
背面コネクタ	DC電源コネクタ×1 デュアルUSB 3.0×2 イーサネットポート×1 Mini DisplayPort×2

10.3 環境条件

動作温度	0℃～+50℃（+32° F～+122° F）
相対湿度	0～90%（大気湿度、結露なきこと）
温度	約51BTU/h、最大221BTU/h

10.4 認証および認定を受けた規格

安全にご使用いただくため に	IEC 60950
電磁適合性	EN55022 EN55024 FCC 47 CFR Chapter 1 Part 15
認定規格	CE、UL

10.5 規格

映像	H.264（ISO/IEC 14496-10）、MPEG-4
映像データレート	最大20Mbps／ストリーム（MP）
GOP構造	I、IP、IBBP
モニター解像度	DP：60Hzで3840×2160（UHD）
音声	G.711：300Hz～3.4kHz L16（受信のみ）：300Hz～6.4kHz

音声データレート	G. 711 : 8kHzサンプリングレートで80kbps L16 : 16kHzサンプリングレートで640kbps
SN比	50dB超
イーサネット	10/100/1000 Base-T、自動検知、半二重／全二重、RJ45
プロトコル	IPv4, UDP, TCP, HTTP, HTTPS, RTP/RTCP, IGMP V2/V3, ICMP, ARP, DHCP, APIPA (Auto-IP, link local address), NTP (SNTP), digest authentication
暗号化	TLS 1.0, SSL, 3DES, AES

索引

記号

シリアル番号	6
デコード性能	8
ネットワーク	13
ネットワーク接続	9
メンテナンス	5, 21
安全性	5
音声接続	9, 13
危険	5
規定	6
記号	6
識別情報	6
主な機能	8
修理	5, 21
設置	5
設置場所	11
設置条件	11
低電圧指令	6
電源	5, 13
電源スイッチ	13
電磁適合性	6
動作	5
表記について	6

D

DHCP	15
------	----

Bosch Sicherheitssysteme GmbH

Robert-Bosch-Ring 5

85630 Grasbrunn

Germany

www.boschsecurity.com

© Bosch Sicherheitssysteme GmbH, 2016